

---

# 転生者...左腕に十字架を byネギま!

聖龍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生者：左腕に十字架を

byネギま！

### 【Nコード】

N9727X

### 【作者名】

聖龍

### 【あらすじ】

自己満足で書いた小説です

暇潰し位に見てください

処女作です  
かなり駄作

転生するらしい(前書き)

二次創作

難しい

転生するらしい

……………ここどこだ？

今俺はまっしろな空間にいる…  
ここはどこだ？…

「あの…貴方は？」

ビクッ！！！

気づいたら俺の後ろに知らねえおっさんがいた  
誰だこいつ

「おっさん、誰だ？…」

「僕かい？僕はね神様だよ！」

……………は？

「おっさん頭大丈夫か？…なんなら医者を」

「いやマジだから、信じて!!」

ただいま割愛中

「つまりこの俺は死んでいて、その死は、あんたの手違いだと?…」

「まあねえ」

ぶっちゃけね」

殺してやるのか?

このくそ神様は?…

「でも安心してくれ  
君は転生出来るからさ!」

君は転生出来るからだと?

「当たり前だ  
手違いで死んでたまるか

」

「まあだね  
じゃあまずは説明していくよ  
君の転生先はネギま!の世界そして君には超チート級の魔力と気と  
5つの能力またはアイテムが与えられるよ!」

能力またはアイテムが与えられるか?  
…

「当然内容は俺が決めていいのか?」

「もちろんだとも!

「さあ決めてくれ！」

「ノリノリだな…神様は」

「じゃあまずば」

「肉体と頭脳の限界突破」

「刀語の見稽古」

「ブリーチの一護の斬月」

「ディージェレのアレンの左腕神ノ道化クラウンクラウンの状態  
であと超直感をくれ」

「あいよ！」

「任せてくれたまえ」

「次の瞬間俺の体が光に包まれた」

「なっ！！なんだこれは！？」

「落ち着きなよ」

「直ぐに終わるからさ！！！」

五分後

「はい出来たよ！」

あと容姿も良くしといたからね」

「……………なんか変わった？」

「直ぐにわかるよじゃあ赤ちゃんからやり直しだけど、頑張ってるね」

えっ…………いきなり！

「バイバイ」

イヤ……………

……………！



そして俺の冒険が始まった

転生するらしい(後書き)

つかれた

けど頑張るぜい) \* ) ム

イッぽこもるんこら (前書)

難しい

ヤバい (〜)

少しはしゃるらしい

「空君」

元帥たちが呼んでる

行ってこい」

はい皆さんお久しぶり

お前の名前は夜星 ヨルホシノラ 空です

俺は今黒の教団の一人として働いています

理由は、俺がまだ赤ん坊の頃にこの左腕のせいで家族に捨てられていたところを元帥たちが拾ってくれたからです

「わかった今直ぐにいくよ」

俺は仲間になんか返事をして元帥たちのところに向かった

元帥たちの話しはこう言う物だった

《日本の学園から長期の依頼がきたから行ってこい》

あまり気が乗らないが俺は任務を受け日本へと向かった

移動中

はいそして日本につきました  
今俺は電車で麻帆良学園に向かっている

「着いたか…ここが麻帆良学園女子中等部か」

なぜ女子中等部にいるかつて？  
今からこの学園長に会いにくからだよ

「さてと、ここに迎えが来るらしいけど………あの人か」

俺の視線に気づいたのか男がこっちにきた

「きみが夜星空君だね

僕の話はタカミチと呼んでくれ」

「わかった、早速だけど……」

「ああ聞いている着いてきてくれ」

そして俺はタカミチの後ろに着いていった

「きたか…」

ビクッ！

ビクッリした〜

学園長なんか

ぬらりひよんみたいだな

「君が夜星空君かのう〜」

「…確かに俺は夜星空だ  
んで依頼内容を教えてくれ」

「ふむう……………」

これからお主には魔法生徒としてここに来てもらう  
クラスは2 - Aに来てもらう、そこでネギ君の面倒を見てもらいたい  
良いか？」

「ああ、いいけど」

「ふおっふおっふおっ

ならよし、幸い今は夏休みじゃ色々準備するがよい」

あっそうだ、住むところ聞かないとな！

「なあじいさん

俺の住むところどこだ？」

俺は、学園長に問いかけた

「住むところな？」

そうじゃな〜

お主には女子寮に行ってもらおう！」

とんでもねえな

このじいさんは

「はあ〜、わかったよ



タカミチその女子寮に案内してくれ」

俺はタカミチに話しかけた

「ああ、わかった

それでは学園長、失礼します」

そして俺はタカミチと学園長屋をあとにした

そのあと俺はタカミチと女子寮に行き部屋の整理や足りないものなどの買い出しをして1日が終わった

次の日

俺は今、街に出ている  
理由は、夏休みの残りで出来るだけ街の作り等を理解したかったか  
らだ

「ちょっと!!止めてください!!」

おう?  
なんだ?

あゝ強引なナンパが  
相手の女の子かなり嫌がつてるな  
……………助けるか?

「なーいいだろ  
一緒に遊ぼうぜい?」

「嫌、離して!!」

かなりしつこいな  
少しこらしめるか？

「いい加減にしろ  
見ていて気分が悪い」

俺は男の腕を掴んだ

「……………えっ？」

女の子の方も驚いている感じだと

「ああっなんだガキ  
関係ねえだろうが!!  
スツこんでろ!!」

今の言動にイラっときた俺は少し力を入れて握った

「痛ででででででで！！！！  
離せ……………離してくれ！」

「

俺は男の腕を離した  
さらにこう告げた

「二度とするな  
次見つけたら腕を握り潰す！」

俺がそう告げると男は一目瞭然に逃げて行った

「大丈夫か？…」

そう問いかけたら  
女の子は顔を赤らめて頷いた

「そうか、ならじゃあな」

俺が去ろうとすると……

「あっあの…！」

と女の子が話しかけてきた  
よく見ると俺と同じ年位か？

「なっ名前教えて下さい！」

女の子は俺の名前を聞いてきた

「夜星 空だ

あんたは」

俺は女の子に問いかけた

「私はアキラです！」

俺は女の子の名前を聞いて

「そうか、ならアキラ

次から気おつけるよ

じゃあな」

「はっはい！」

そして今度はそ俺はその場を後にした

少しはしゃるらうい(後書き)

疲れた

ねみい……ヤバい

( < \_ > )

## プロフィールらしい(前書き)

主人公のプロフィールです

見てください (ローリー)



## プロフィールらしい

主人公

夜星 ヨルボシノラ  
空

容姿

黒髪で長めのツンツン頭  
見た目は上の中位で細身だが筋肉質

性格

仲間思いで優しいがかなりのめんどく下がり  
でも仲間の為なら命を惜しまない所がある

特技

料理や掃除など  
剣術に体術  
ある程度の勉強  
などなど

能力&amp;amp;amp;アイテムの説明  
クラウンクラウン  
神ノ道化

左腕をカギツメのように変化させ武器として使うほかにも鎧など様

々な能力がある親に捨てられた原因でもある

ザンゲツ  
斬月

普段はブレスレットの状態だが戦闘になると大きな剣となる  
だが卍解すると長い太刀となり切れ味やのスピードが上がる  
魔力を込めれば黒い斬劇となり敵を切り裂く

見稽古

見ただけで体術、剣術など様々なことを盗む事が出来るだが目がそれなりに疲れる

超直感

生物であれば動き、攻撃などを直感的に先読みすることができる  
鍛えれば機械でも先読みできる

プロフィールらしい(後書き)

出来ましたなんとか

疲れました( - . - ) Z Z Z . . .

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9727x/>

---

転生者...左腕に十字架を byネギま!

2011年10月30日02時23分発行